A　子育て・教育分野

A-01　子どもたちが自由に遊ぶことができる放課後の実現

小学生の放課後は，かつては夕方まで自由に遊べる居場所だったが，平成13年の附属池田小事件をきっかけに，学校はそれまでの「地域に開かれた施設」から安全対策重視の「閉ざされた施設」に方針転換した。子どもたちの放課後は学校生活から切り離され，校庭で遊ぶには一旦帰宅してから親の同意を取って訪れるか，放課後児童会に在籍するしかない。

子どもたちが放課後の校庭で自由に遊べる環境を作るには，地域の大人たちによって安全に見守りができる状況を作り出すことが重要となる。

以下の条件がクリアできるような安全確保ソリューションを導入することで，学校の先生に頼らない方法で，昔のように子どもたちが自由に放課後の校庭や体育館で遊んで帰ることができる環境を取り戻すことができないだろうか。

（必要となる条件）

・少数の地域の大人の見守りだけでも子どもたちの安全が保たれている

・いつでも不審者に対応できる

・遊んでいるときの不意のけがに対応できる

・子どもたちの所在や行動が一目で分かり把握できる

・安全に帰宅させることができる

A　子育て・教育分野

A-02　子育て情報の発信とニーズ調査の効果的な手法

現在，呉市の子育て情報はウェブサイト「くれ子育てねっと」と子育て支援アプリ「くれっこアプリ」を活用して発信しているが，ウェブサイトは相手が閲覧しないと情報が伝わらないし，アプリは必要なときに情報をプッシュ通知で届けることはできるものの，事前に登録している人にしか発信できない。市民の家族情報などから対象をセグメントすることにより，関係のない情報を見なくても良い手軽さと，必要とする情報が適切な時期に届く安心が感じられるような効果的な情報発信をすることができないだろうか。

また，子育て支援計画の更新時などにニーズ調査を行っているが，現在は住民基本台帳から年齢・地区ごとに抽出した子育て世帯に対して郵送で調査しているため，集計に時間やコストがかかっている。電子的なアンケート調査方法であれば，対象者を抽出して郵送するよりも多くの人から回答が得られ，より正確にニーズを把握することが可能になるだけでなく，回答にかかる時間も手間も軽減され，集計や分析作業の効率が図られるのではないか。

A　子育て・教育分野

A-03　地産地消を維持するための保育所給食における食材調達

保育所や認定こども園の給食は自園調理が基本であり，管理栄養士が考える献立は地産地消や食育を兼ねて旬の食材を取り入れ，栄養価の高いものを食べてもらえるよう工夫を凝らしている。しかし，島嶼部などの保育所では，限られた個人店に頼らなければ早朝の食材調達が難しいため，ほとんどの地域で取引先が固定されており，将来的に安定した調達が困難になることが懸念される。

また，高齢者の経営する個人店などは，伝票など紙による従来からの手作業で事務処理を行っており，作業ミスによる修正や請求書類の再提出などで事務が繁雑になっている。

このような状況を改善するため，発注から支払までの給食事務をデジタル化し，個人店からスーパーマーケットまで，同じ条件で商取引ができる仕組みを構築できないだろうか。

例えば，栄養価が高い旬の食材を使ったメニューを提供したいという管理栄養士の思いと，山の幸海の幸がふんだんで豊かな食文化を支える農水産業従事者の思いを上手に組み合わせたり，サイクリングコースとしても有数のロケーションである安芸灘四島をロードバイクで個別配送する仕組みを取り入れるなど，市内の全保育所で豊かな食文化を子どもたちに伝えていくための食材調達・流通・配送の新たな仕組みをクラウドサービスなどのICT技術を活用して構築できないか検討したい。